

## 2026 年度ゼミ（演習 2A／演習 2B）要覧

担当者名	久保田 浩
演習テーマ	ポスト近代社会において「宗教」を「読む」
校外実習	2027 年 2 月中・下旬（ドイツ連邦共和国、約 14 日間）
メール・アドレス	frhkubot@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	メールにて連絡してください。
2027 年度に 開講しない可能性 (研究サバディカル)	なし
授業概要	多文化共生社会を目指していくための前提として、「ポスト近代」と特徴づけられる社会の現状を批判的に把握する能力が必要とされるが、その中には「宗教」に関する情報を的確に「読む」能力も含まれる。本演習では、特定の宗教事象（出来事、事件、団体や個人の活動等）を選び、調査と分析を進める。「演習 1」では「文化」化した「宗教」をテーマとしているが、「演習 2」では、春学期に宗教が「社会問題」化した事象を、秋学期に宗教と／の「社会貢献」に関する事象を扱う。具体的には、①社会における「宗教」の批判的な「読み方」に関する英文テキストを講読し、社会的・文化的現象としての「宗教」を分析する際の理論的・方法論的問題点について検討する。②問いを提起し、調査トピックを見つけ出し、調査・分析を進める。①②とも、グループ単位で、講読テキストの内容の検討と発表、調査・分析ならびにその経過と成果の報告を行う。
学習目標	「宗教」を社会的・文化的現象として取り扱う視座と具体的方法、ならびに「宗教」を巡る諸問題についての情報の処理の仕方を身につけ、社会における「宗教」の役割・機能・意義・可能性・限界等を分析し理解するための批判的能力を獲得する。
授業計画	各学期とも以下の構成で行う予定である（数字は週を示す）。 1 ガイダンス・導入講義、2～5 理論・方法論に関するテキスト講読、6～9 グループ調査中間報告、10～13 最終報告
予習	トピックの調査、英文テキストの精読、レジュメの作成等発表の準備（基本的にグループワーク）
復習	発表の振り返り、次回の発表に向けての継続調査
授業に関する 注意事項	初回に、グループ分けを行い、文献講読・中間報告・最終報告の担当回を決定する。グループでの共同の議論・調査・資料蒐集・資料読解・レジュメの作成・発表が中心となるので、定期的にサブゼミを行い、グループ内で十分な議論と準備を行うこと。
参考書	【春学期】櫻井義秀『「カルト」を問い直す』（2006 年）、【秋学期】白波瀬達也『宗教の社会貢献を問い直す』（2015 年）。その他授業時に紹介する。
成績評価の基準	複数回の発表（60%、講読担当発表 1 回、研究発表 2 回。レジュメも評価の対象となる）。ミニ卒論（40%）。
認定留学期間中の 遠隔指導	可（ただし、要事前相談）